

件名	令和3年度 第3回 福井市障がい者自立支援協議会 就労支援部会 報告書		
日時	令和4年2月3日(水) 14:00 ~ 15:00	会場	オンライン開催
報告事項	<p>(1) 第2回での意見・質問について</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆説明就労支援ガイドブックについて <ul style="list-style-type: none"> ・学校宛に完成した就労支援ガイドブックとチラシを送付・・・資料1参照 ・第2回で出た意見を元に、QRコードを掲載。窓口に備え付けしており、就労を希望する方に配布予定。 ・部会員もHP等でPRに協力して欲しい。 ◆市職員の障害者雇用の状況について <ul style="list-style-type: none"> ・福井市の雇用数は67.5人で、4.5人不足している。 ・解消に向けた取り組みとして、事務作業に加えて労務作業等職種の枠を広げる方向で検討中。ハローワークの募集内容をチェックして欲しい。 ◆就労アセスメントについて <ul style="list-style-type: none"> ・3月に特別支援学校に実習日程の調査を行う予定だが、就労アセスメントに関する課題などについて、アンケートを取り、課題をとりまとめる。 <p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公的機関HPでのリンクについて前向きに検討していく。 ・職員募集があった場合、就労支援事業所及び学校に情報を流してもらいたい。 ・労務作業等で職員募集をしていくなら、作業内容について部会員や学校など、支援の現場の意見を述べる機会があるといい。 ・採用後のサポート体制を広げていけるといい。 ・どこの役所でも雇用することが目的になってしまい、適正を見るなどの受け入れ態勢が整っていない状況で進んでしまっている。 ・就労アセスメントについてどの学校でも悩まれている部分があるので、アンケートをしてもらえるといい。 ・就労アセスメントについて詳しくわからないので学べる機会があるといい。 ・就労アセスメントの日程がかぶってしまい、市町に提出する書類を作るためだけのアセスメントになってしまっている。生徒の情報が市に届いて、そこから各事業所に振られるような体制があるといい。 <p>⇒・HPのリンクは事務局から公的機関に依頼を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市職員募集情報のアナウンスを事業所・特別支援学校に流していく。 ・市職員募集・採用後の定着について、機会があれば意見を述べる場を設けていく。 ・特別支援学校には3月にアンケートを実施する。 <p>(2) 令和3年度就労支援部会取組報告について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料に基づいて説明・・・資料2参照 		

協議事項	<p>3 協議事項</p> <p>(1) 令和4年度就労支援部会取組内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就労支援ガイドブック更新、特別支援学校の実習日程の共有、ネットワークミーティングの開催については、例年通り実施する。 ・出欠確認の際に、移行支援・定着支援の活性化について協議していきたいとの意見があった。次年度のテーマとしてどうか。 <p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移行定着のネットワークミーティングでも、就労アセスメントの目的をしっかりとという話があった。 ・もっと地域社会に障害のある方の雇用を促していかなければならない。ネットワークミーティングを使いながら、どういうポジショニングで運営していくかを福井市全体でボトムアップ出来たら良いのではないか。 ・A型ネットワークミーティングの時に一般就労出来た人の例を話すことが出来て参考になった。参加できない事業所とも情報共有できるといい。 <p>⇒・就労支援ガイドブック更新、特別支援学校の実習日程の共有、ネットワークミーティングの開催については、大枠は変えず例年通り実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移行支援・定着支援の活性化についてネットワークミーティングで取り入れていく。 ・ネットワークミーティングの内容は後日、市HPにアップ予定。 <p>(2) 令和5年度就労支援部会員の選定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・B型事業所が増えているということがあり、B型1名A型1名増員を検討している。 ・他の部会は10名前後だが、就労部会は人数が多くまとまりがなくなる可能性があるかどうか。 ・メンバーの選定については全事業所に希望調査をする予定。調査後事務局から協力について説明し、選定していく。 <p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就労部会はオブザーバーの機関の比率が高い。それぞれの機関に関連した話がメインでなければ欠席になる比率が上がるのも仕方がない。事業所の比率が高い方が良い。 ・コロナ禍も続くので、人数を増やすと運用が難しくなるのではないかという思いもある。最終的な判断は部長と事務局で進めてもらえばいい。 ・将来的なことを考えると、たくさんの就労事業所が参加し、事業所が主導すべきではないかと思う。B型が2つ増えてA型が1つ増えるくらいが構成的には妥当ではないか。福祉サービス事業所の構成比も変わっていくので、それに合わせて部会も変化が必要。 ・部会に意見をもってくる体制として、昨年度からネットワークミーティングを開催しており、A型ならA型、B型ならB型の意見を持ってくるピラミッドの仕組みが出来ると良いのではないか。その分野の意見を取りまとめて、意見として部会に持ち上がる仕組みが作れたらどうか。 ・ネットワークミーティングについて、B型は40近くの事業所があるが、B型といっても幅が広く、2事業所でまとめ切るのは現実的ではない。 ・医療機関などは年に数回の部会本会に参加して意見を述べてもらうのではなく、その都度意見を求めるようなオブザーバーのような存在であつたらと思う。支援が一番身近な

	<p>人にたくさん入って欲しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議のテーマによって来てもらうやり方は出来ると思う。 ・医療機関は自分がアンテナを張らなければ情報を得ることが難しい。医療機関の中だけの話になりがちなので、ネットワークミーティングや本会に参加出来るのは役に立つ。医療機関としては参加させてもらいたい。 ・傍観者となるよりは、ネットワークミーティングに来てもらって一緒に取組が出来るといい。参加意識が生まれるのではないか。 ・ネットワークミーティングなどを下部組織として、就労支援部会が何をしているかというのをもっと情報発信をして理解してもらう必要がある。 <p>⇒・人数の調整と各組織の充実を考えていく。</p>
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・地域生活支援拠点についての意見徴収の案内。
次回	令和4年5月頃